

6月になり、蒸し暑い日が多くなってきました。もうすぐ梅雨本番ですが、元気に乗り切りましょう。

さて、5月9日(木)から、2年生が沖縄に修学旅行に行ってきました。たくさんの思い出ができたと思います。普段はできないたくさんの体験をしてきましたが、その中でも平和学習は、ひとりひとりの心にしっかりと刻まれたことでしょう。平和祈念公園やガマの見学で当時の戦争の激しさや人々の苦しみ、平和の尊さを実感したことと思います。戦争被害者への共感と、戦争について得た知識を基礎として平和について考えること。思いやりを大切にし、いじめや暴力を許さない仲間となることが「平和」への第一歩といえるのではないのでしょうか。

2年生の感想を紹介します。

ずっと暗い中で休みもせず働いたひめゆり学徒隊の人たちは、どんなことを思ったのかと考えるとつらくなる。自分がその一員なら、耐えられなくて逃げ出したくなると思う。私はガマの中に入ったとき、懐中電灯を消すと「怖いから外に出たい。」と思った。でも、当時は外に出たらアメリカ軍が来るかもしれないから、「中の方がいい」と考えていたことに驚いた。痛くて、暗くて、空腹な人は、本当につらかったんだろうと思うと、心が痛い。二度とこのような悲劇を起こさないように、少しずつでも平和に近づいていってほしいと感じた。

戦争を繰り返してはならないと思っている人がいるから、このような平和祈念資料館や平和のモニュメントなどの施設ができたのだと思った。そして後の世代がまた戦争をしないために、私たちが、特別たくさん知っているわけではないけれど語り継いでいこうと思った。世界でまだ戦争が続いているところはあるけれど、それをやめるには昔の人の証言が必要だと思う。世界平和へと早く一歩一歩近づきたい。

平和祈念公園でたくさんの慰霊碑を見て、ぞっとした。数字だけだとよくわからないけれど、亡くなった人の名前がすべて記されている慰霊碑の量が想像より多かったからだ。この量から、戦争のひどさがわかる。世界では戦争が起こっているが、いつかなくなってほしいと思った。戦争がなくなることもなんかないのかもしれないが、僕は戦争がなくなるように努力していきたい。資料館の最上階で見た海の景色はとても美しかった。

沖縄戦のこと

「展示むすびのことは」

沖縄戦の実相にあふれるたびに戦争というものは、これほど残忍で、これほど汚辱にまみれたものはないと思うのです。

この、なまなましい体験の前ではいかなる人でも戦争を肯定し美化することは、できないはずだ。

戦争をおこすのは、たしかに人間ですが、しかしそれ以上に戦争を許さない努力のできるのも、私たちが人間、ではないでしょうか。

戦後このかた 私たちはあらゆる戦争を憎み平和な島を建設せねば、と思いつづけてきました。

これがあまりにも大きすぎた代償を払って得たゆずることのできない私たちの信条なのです。

(沖縄県平和祈念資料館提供)

※1 実相…ありのままの真実
※2 汚辱…人間としての尊厳をけがされることによる、はずかしめ。



平和祈念公園にて

「わたしの願い」より抜粋

